

第一節 第十八回總委員會ニ於ケル討議

一月九日午前第十八回總委員會ニ於テ航空分科會報告ヲ審議セル際航空機使用ノ問題ハ自ラ議ヲ交戰法規ノ問題ニ及ホサシメ伊全權「シャンツエ」氏ハ無防禦都市砲撃禁止ニ關スル海牙條約中ノ規定ヲ今再ヒ新ニ五國間ノ條約ニ依リ確認セんコトヲ提議シタルニ一同主義ニ於テ賛成シタルモ「ルート」氏ハ右ノ海牙條約ノ規定ハ航空攻撃ニ對シテハ甚タ不完全ナルコトヲ指摘シタルヲ以テ「シャンツエ」氏ハ提案ヲ固執セス議長ハ此等ノ問題ヲ審議スル爲ニハ新ニ法律家ノ委員會ヲ組織スルコト必要ナルヘシトテ新委員會問題ノ討議ニ入レリ（第四章第四節第二款參照）

議長ハ航空問題討議熟セルヲ見テ曰ク「シャンツエ」氏ノ提案ノ精神ハ大體ニ於テ受諸セラレタルモノノ如シ討議ノ模様ヨリ察スルニ戰爭ニ關スル其他ノ法規ト共ニ右ハ法律専門委員會ノ慎重ナル考慮ヲ要スル如シ今ヤ本委員會ハ「戰爭法規ハ次回會議ニヨリ考慮セラルヘシ」トイフ航空分科會決議ヲ審議申ナル處此處ニ代表セラル各國ニ依リテ法律家専門委員會創設ニ關スル規定ヲ作成センコトヲ提議ス其委員會ハ各國ニ勸告ヲ提出スル目的ヲ以テ新式武器出現ノ爲必要ヲ見ルニ到レル戰時法規問題ヲ考究スヘキモノトス恐ラク次回會議モ本委員會ニ於ケルト同様其問題ノ性質カ専門的ナルニ依リ困難ナル地位ニ陥ルヘシ然レトモ本件ニ着手スルニ當リ最善且ツ最モ實際的ナル方法ハ茲ニ集レル諸國カ此法律専門委員會委員ヲ指名スルコトヲ協定スルニ在リ云々

加奈陸委員「ボーデン」ハ將來ノ會議開催ニ異論ナシト述ヘ米國委員「ルート」ハ前ニ鐵道交叉點、軍需品製造所等ノ爆撃ハ許スヘシト述ヘタルモ今日此等ノ施設ハ廣ク無辜ノ市民ノ居住地ニ散在セルヲ以テ果シテ如何ナル方法ニ依リ又如何ナル限度マテ此等施設ノ攻撃ヲ制限スヘキヤ將又此等施設ノ絕對攻擊禁止ハ果シテ可能ナリヤノ點ヲ審査スヘク此等ノ點ハ將來ノ會議ニ於テ研究スルヲ滴當トスト述ヘタル後又委員會設立ハ五國ノミニ限ルモノナリヤノ點ヲ論議スヘシトイフ

議長ハ斯ク制限スル考ニ非ルモ五國代表ハ其端緒ヲ開クモノナリト答フ

議長ハ猶續ケテ本件ハ重要視スヘキモノナレハ起草委員會ニ附託スヘキモノト考フル所目下次ノ如ク宣スルヲ以テ充分ナリト思考ス

茲ニ代表セラル各國ハ過般大戰ノ結果ニ鑑ミ戰時法規ヲ考究シ猶新式武器ノ發達ニ照シテ考查ヲ爲サシムル爲法律専門委員會ヲ任命スヘシ

若シ反対ナクハ細目ハ起草委員會ノ起草ニ委スヘシト陳ス

英國委員「バルフォア」ハ議長ノ處置ヲ賞シテ賛意ヲ表シ而シテ曰ク然レ共起草委員會ニ希望スル二箇ノ提議アリ（第一）本件ヲ法律家ノミニ制限シタルハ賢明ナリト云フヘカラス何トナレハ本件ハ單ニ法律制定若シクハ新法舊法ヲ國際法體系トシテ編纂スルノミニ非スサレハ法律家ハ重要ノレトモ斯ル新式武器ヲ如何ニ取扱フヤク知ル専門家ハ國際法學者以上ニ重要ナラン（第二）第二ハ一般ノ承認ヲ得サルヤモ知レサレトモ余ハ審査範圍ヲ合理的ニ限定シ度シ國際法殊ニ戰時國際法ハ異常ニ複雜ナリ余ハ戰爭手段ノ發達ハ必然的ニ戰時法規改正ヲ伴フモノナルヲ拒ムモノニアラス然シ乍ラカカル問題ハ非常ニ複雜廣汎ニシテ専門家ノ意見ノ相違ヲ招クコト必定ナルヲ以テ余ハ考查ヲニツニ分タン事ヲ希望セサルヲ得ス最モ重要ナル一般的研究ノ部分ハ已ニ米國國務省ノ提出サレタル軍備制限問題議題中新式武器取締法規（"Rules for the control of new agencies of Warfare"）ナル項ノ下ニ提議セラレタリ若シ該會議カ少クトモ其ノ第一步タル専門技術家及法律家ノ混合委員會ノ事業トシテ審議ヲ新式武器問題ニ限局スル時ハ決論ニ達スルコト遙ニ容易ナルヘク又全體ノ同意ヲ得ルニ到ルコト容易ナルヘシト陳ヘテ委員會事業ノ範圍ヲ限定センコトヲ提議セリ

議長ハ個人トシテハ何等反対ナキ旨ヲ陳ヘ該委員會ハ専門技術家ノ意見ヲ無視シテ法律家ノミニテ構成スル意毫モナケレト各國法律家ハ各々自國ノ陸海専門家ヨリ充分建言ヲ受クヘシ法律編纂ノ時ニ當リ陸海専門家ノ意見適當ニ考慮セラレ且ツ適當ニ表現セラルル爲ミニハ特別ナル法律家ノ訓練ヲ必要トス若シ希望トアルニ於テハ委員會ヲ擴大スルコト毫モ不贊

成ニ非レト起草ノ場合ハ成ル可ク少數ヲ可トス又審議ノ範圍制限ノ提議モ意義アリト考フ「バルフォア」氏ノ指摘セラレタル假議題提出ノ際右ハ慎重ニ考慮セル所ナリ又委員會構成ノ件及審査範圍ノ問題ハ起草委員會ニ附託シ度シト述フ之ニ對シテ「バルフォア」ハ起草委員會附託ニハ全然賛成ナレトモ起草委員會ノ權限制限ノ件ハ留保シタシト述フルヤ議長ハ議事進行ノ爲メ「バルフォア」氏提議ハ凡テ起草委員會ニ附議シ度シト答ヘ「バルフォア」氏之ヲ諾シ全會一致起草委員會附託ニ決シテ閉會ス

第二節 起草委員會議事經過

第一款 起草委員會ノ一

前節第十八回總委員會ノ決議ニ基キ一月十八日第二回五國起草委員會開催セラレ新式武器戰時法規委員會設置協定ノ起草ヲ爲ス（第一回五國起草委員會ハ潛水艦規則起草ノ爲メ開カレタリ）

出席者左ノ如シ

日本	埴原全權、杉村事務官、白鳥事務官
米	「ルート」Root (議長)
英	「ゲデス」Auckland Geddes
佛	「カムベル」Kammerer
	「トウザ」Touzet
伊	「シャンヤツヒ」Schauzer
	「バリアノ」伯 Cout Paglano
	「ルート」決議案（附錄第一參照）
	而シテ右決議案ヲ説明シ該決議案ハ其實質ニ於テ三箇ノ問題ニ關ストラ次ノ如ク述フ
(一) 委員會ノ構成 本決議案ニハ大戰中ノ中立國ヲモ參加セシムル様ニナセリ蓋シ茲ニ代表セラル諸國ハ何レモ交	